

## 令和2年度 中学生の「税についての作文」

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会 優秀賞

### 「全ての人が安心して生活するために」

柏市立土中学校 三年 田辺 愛歩

ある日、兄は生活保護を申請した。私は兄と十四歳離れていて、兄は一人暮らしをしていた。兄は働くことができなくなったが、家族に迷惑をかけたくなかったため、実家には戻らずに生活していた。そのままの生活が続けば、兄は健康でなくなっていたかもしれない。

兄の生活状況の調査が着々と進む中、父宛に一通の封筒が来た。それは、本当に家族が兄に今以上の支援ができないのか、という内容の調査だった。兄は父と母に、「支援できない」のほうに丸をするように頼んでいた。しかし、父は「支援できる」に丸をした。そのため、兄は生活保護を受けられなくなった。

その後、兄は実家に帰ってきた。初めは仕事を転々としていたが、今では楽しんで仕事に行くことができている。

私は、この結果で良かったと思う。兄には生活保護は必要無かったのだ。今、私達に求められていることは、税金を無駄使いしないことだと思う。私の家では、家族で協力することで、生活保護を受けずに問題を解決することができた。

税金の無駄使いを無くすには、生活保護の受け方を見直さなければいけないと思う。生活保護のお金を使って、毎日たくさんお酒を飲んだり、煙草を吸ったり、パチンコをしている人がいる、と聞いたことがある。仕事を見つけて働くのには向き不向きがあり、働けないことは仕方がない。しかし、国民が働いて払っている税金を娯楽に大量に使う人がいるのは信じられない。また、生活保護を受けられることを理由にして、働けるのに仕事をしないことを選ぶ人もいる。このような生活保護の不正受給が増えてしまうと、公共事業や教育などにあてるお金が減るかもしれない。

さらに、生活保護の不正受給が増えると、生活保護に対する偏見が広がってしまう。今でも生活保護を受けていることを隠して生活している人はたくさんいると思う。周りの目を気にして、生活保護を受けることを諦める人が出ると、その人の生死に関わってしまうだろう。

私は、生活保護という制度をこれからも残していくべきだと思う。生活保護のおかげでたくさんのお金の命が守られているからだ。その上で大切なことは二つある。一つ目は、生活保護を受ける世帯を周りも支援していくことである。生活保護を受ける人は家族や親戚の援助がもらえない人である。地域の人で精神的にも支えていくことが大切だと思う。二つ目は、生活保護が自分にとって本当に必要かを考え、無駄使いをしないことである。国民全員が安心して生活するために生活保護がある。間違った理解をしないようにしていきたいと思う。

税金は、国民が納め、国民のために使われる。自己中心的な考え方をやめ、税金が公正に使われるようにしていきたいと思う。